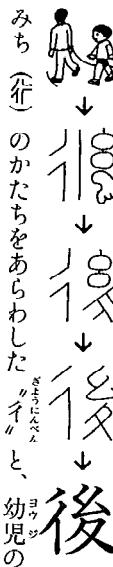


後

二年 筆順 画数
コウ のち・あと・うしろ・おく

成り立ち



みち(往)のかたちをあらわした「キ」と、幼児のいみの「ム」と、足のかたちをあらわした「止」(止)と組み合わせてつくった字です。

「みちをいく『幼児の足』は『おくれる』」ということで、「おくれる」「あと」になることをあらわした字です。

「あと」ということで、「のち」「うしろ」というみにもつかわれます。

〔「ゴ」は呉音で、コウは漢音〕

語

二年 筆順 画数
ゴン オン ゴ・コウ
カタハルル



成り立ち

むかしの「わたくし」といういみのことばの「吾」(訓は「われ」)と「言」とを組み合わせてつくった字です。「わたくしが言う」といういみの字で、「かたる(話をする)」といふことばをあらわした字です。

また、「国語」(日本語)、「英語」、「中国語」というようないみにもつかわれます。

△前半のしごとがおわったので、午後から後半のしごとにとりかかります。

△今は食後のくすりだけのめばよろしい。

△午後(午はひるの十二じ)。「ひるの十二じより後」のこ

と。「ひるすぎ」)

△今後(今から後)。「これから」)

△食後(食事の後)。食事をした後)

△後日(後の日)。「後になつて」といういみ)

△後世(後の世)。後の時代)

△後退(後も退も「しりぞく」いみ)。「しりぞく」こと。

△後生(後れて生まれる)こと。じぶんより後れて生まれてきた人のこと。)

△後援(後ろから援助すること。後ろだて)

△後退(後も退も「しりぞく」いみ)。「しりぞく」こと。

△後生(後れて生まれる)こと。じぶんより後れて生まれてきた人のこと。)

△後樂(後れて楽しむ)こと。「天下の楽しみに後れて

△楽しむ」ということばからとつたことば。水戸黄門が庭園にこのことばをとつて「後樂園」と名づけました。)

使い方

△せかい中には、やく二千の言語がある、といわれています。

△あの人々の語調は、はつきりしていて、わかりやすい。

△おかさんは、ぼくが小さいとき、いろいろなおとぎばなしを語つてきかせてくれました。いまでも、そのうちのいくつかを、おぼえています。

△わたしは、じぶんで物語をこしらえて、たのしんでいました。今までに『ミイとビイ物語』や、『ようせいムックのぼうけん』や、『バナナボート物語』などをつくりました。

△語尾をはつきりといふことは、たいせつだが、あまりつよすぎても、ささぐるしい。

ことば

熱話例

△言語

(ことば)

△語調(ものを言う調子)

△大言壯語(いはつた、大きくなことば)。「あんなに大言

壯語をほくのは、見ぐるしい」などといいます。)

△語尾(ことばのおわり)

便い方

熟語例